

令和6年度 第2回伊那北高等学校評議員懇談会報告

学校評議員運営委員会

I	日時	令和7年2月1日(土)	16:10~17:00
II	会場	高志館1階研修室	
III	出席者	〔評議員〕 有賀 泰司(義務教育関係) 平松 浩二(大学関係) 傳田 智子(上伊那広域連合) 柴 茂(自治会関係) 松井 秀之(企業関係) 岩崎 靖(同窓会関係) 古藤 祐巳子(保護者)	
	〔職員〕	校長 教頭 事務長 齋藤(教務) 桐生(進路・学校評価 代理黒岩) 半場(生徒指導) 瀬戸(特別支援) 黒岩(CPA) 松村(PTA 欠席) 西澤(職場代表)	
IV	次第	(司会:教頭)	
	1	学校長挨拶	
	2	第1回評議員会懇談会のまとめ	
	3	本年度の本校活動中間報告	
		(1) 進路指導について(黒岩)	(2) 生徒指導について(半場)
		(3) 特別支援・生徒相談について(瀬戸)	(4) 学校評価について(教頭)
		(5) 薫ヶ丘CPAについて(黒岩)	(6) PTAについて(教頭)
		(7) その他(教頭)	
	4	意見交換	
	5	学校長挨拶	

1 意見交換で出された質問・意見等のまとめ

(1) 学校教育全般について

- ・今の伊那北高校の3年生は、(コロナ禍の時に)中学校で苦勞した生徒たち。そんな生徒たちが、(進路指導係からの報告をふまえると)伊那北高校で良い3年間を過ごせたことへのお礼の気持ちを持っている。
- ・34回の卒業生たちと還暦の会を実施した際に、愛校心の強い仲間がたくさんいた。いい高校生活を送れたからこそであり、今の子どもたちも良い高校生活を送ってほしい。
- ・応援歌を覚えることが愛校心につながるツールだと思う。かつては7つの応援歌を、強烈な応援練習で叩き込まれた。
- ・先日、ダンス部の生徒3名が中学校に来校した。思いやりや柔らかさとともに、しっかりとした思いを持つ生徒たちだった。地域に出ようとする発信力と行動力を、これからも発揮してほしい。
- ・先日、弓道部に加入している娘が、女子部員13名を自宅に泊めた。子どもたちは明るく、しっかり大人と会話ができる人たちという印象を持った。
- ・探究活動のすばらしさを感じるとともに、そのための準備期間としての中学校への宿題も感じる。
- ・伊那中学校は探求型の授業を重視している。授業見学をした際も、平家物語の授業を講義形式ではなくてタブレットを活用しながら皆で話し合っ、考えを醸成していく内容だった。1~3年生すべてが、わいわいがやがやの授業を行っていた。伊那新校にも強く求められることだと感じる。
- ・中学校から部活動がなくなっている。そんな生徒たちが高校に入学した後に、バレーやテニス等の部活動に加入するのにかどうか心配している。
- ・学際コースの中間評価、クラス編成の効果を知りたい。

(2) 生徒指導及び基本的な生活習慣について

・伊那北高校周辺地区として認識している問題は2つ。1つは(生徒指導係からの報告にあった通りの)自転車の安全走行について。もう1つは、伊那北駅に向かう途中の歩道橋付近から入る小さな道。スクールゾーンになっており、通行禁止の時間がある。警察の取り締まりも重点的に行われている。地域の住民は許可証をもらえるが、教職員や生徒は気を付けなければならない。特に、原付で登校する生徒が通らないように注意する必要がある。

・イヤホンをつけて自転車に乗る生徒、歩く生徒は周りの状態に気づきにくいため危ない。特に自転車通学の生徒はダメだと思う。

(3) 高校再編実施計画(伊那新校)について

・伊那新校の形がはっきり見えてきて、生徒・保護者としては安心した。第1回目の学校評議員懇談会の際はまだ形がみえていなかったため、(中学3年生の子どもがいる)保護者としては迷いや不安があった。

・伊那北駅前の整備活用について、これまで行政から具体的な案がでてこなかった。(先日の整備に関わる懇談会で)埋橋校長が言った「伊那北駅から伊那新校に歩道橋を」等のような具体的な案が出てくることが、実現の可否はともかく心強いと感じた。

・伊那新校周辺整備が始まるにあたって、大人の考えでは「伊那北駅周辺に、高校生が滞留できるスペース」を作ろうとしているが、高校生たちは本当に欲しいのか。学校から駅に向かって下校する高校生たちは何を求めているのかと素直に疑問に思う。現在、伊那北駅前にある飲食店のタコハイは、高校生に聞くと「高いから1か月に1回しか利用しない」という。

・自分の高校生活を振り返ると、高校生が学校帰りに滞留できるスペースはあってよいと思う。

・伊那北高校グラウンド近くの土地を取得した。同窓会館の駐車場として利用するが、教職員の臨時駐車場や工事車両、クラブ活動等でも活用してほしい。

・伊那北高校の閉校式や伊那新校の開校式は、学校が主体となって実施する意識の下で計画を立案してほしい(100周年記念事業は同窓会主体であったが)。

(4) その他

・昨年度寄付していただいた3500万円を、新校のためだけではなくて、今の伊那北高校の子どもたちのために用いられる使い方を県に求めているのかを知りたい。

・コロナ禍の5年間を記録として残していきたいので、協力をしてほしい。

・PTA役員として、PTAに加入する人、しない人がいることに関心がある。今後も、PTAには学校生活を支えたいと思う保護者たちに入ってもらいたい。時代の流れで、入らない選択をする人も多くなってきているができるだけ入ってほしく、存続してもらいたいと思う。